

構造材5工場で20万坪に迫る

九州受注好調で佐賀工場を増設

ポラテック

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、佐賀工場に月間加工能力7500坪の構造材ラインを追加することを決めた。坂東工場テクノワールドも機械更新で同5000坪を加える計画だ。年明けにも富士工場に同1万2000坪の設備の導入を決めているため、構造材を加工している5工場の加工能力は、現在の17万5000坪から、2021年中には19万9500坪と圧倒的になる。

新、12万4336坪（前年同月比1・6%増）となった。園部雅子プレカット営業本部長は「取引先のビルダーは、好調が続いている。新規顧客もこの半年でかなり増えた」と好調の要因を話す。

羽柄材は8万1401坪（同3・4%減）、合板加工は6万5219坪（同1・1%減）。外販受注は3814棟（同0・7%減）、外販売上3675棟（同1・0%減）。非住宅受注は6838・9坪（同33・3%減）、非住宅受注比率は5・3%にとどまった。今年には佐賀工場の増設に向け、九州の営業を強化してきた。その結果九州での受注が増え、佐賀工場への構造材ライン（平安コーポ

レーション）月間加工能力7500坪を追加することを決めた。21年4月ごろにも機械を設置、同5月稼働を目指す。夏ごろ坂東工場テクノワールドの2号機（月間加工能力1万5000坪）を2万坪の新ラインに入れ替えることも計画している。

富士工場への1万2000坪の構造材・羽柄材加工ラインの導入は既に決めていた。これにより同社の構造材生産能力はさらに高まり、21年中には19万9500坪になる。北大路康信専務は「最近は羽柄材の加工点数が増え、羽柄材機（平安コーポレーション）をさらに1基増設する。また、20年までは構造材生産拡大への投資は抑えていた。21年から再び拡大路線をとっていく」と話す。

同社は米松小角の供給が少なくなっているため、Rウッド構造用集成材を母屋、桁角で積極的に提案している。105ミリ角は455プライ、90ミリ角は3プライで、価格と品質面で米松より有利なことを訴求して切り替えを進めたい考えだ。